



十府ヶ浦海岸に  
高さ14mで再建された防潮堤

発行：野田はまなす会 / 編集：野田はまなす会事務局（野田村役場未来づくり推進課） ☎0194・78・2963

## ごあいさつ



野田はまなす会  
会長 久慈士郎

初秋の候、夏の暑さも峠を越え朝夕は涼ぎやすく皆様におかれましては、お元気で過ごすごしのこととお慶び申し上げます。

さて、今年6月21日（日）に開催予定の「野田はまなす会総会・交流会」は中止となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染者が2月頃から首都圏を中心に全国に拡大し、政府から不要不急の外出自粛・大人数での会食自粛の要請、そして4月には緊急事態宣言が発令される事態となりました。これらの状況を勘案し感染拡大防止の観点から、ご来賓の方々と会員の皆様の健康と安全を考慮し、既にご案内の通り今年度の総会は書面表決により議決とさせて頂きました。会員の皆様にご協力いただき感謝申し上げます。

また、野田村におきましても、夏祭りをはじめ各種イベントの

中止を決定されております。

緊急事態宣言が5月下旬に解除され7月中旬から経済活動の再開・復活が期待されましたが、7月下旬になり全国的に感染が急拡大し、感染者ゼロの岩手県でも初の感染者が確認されました。

安全で有効なワクチン・治療薬もまだ開発されていない中、しばらくは感染予防を徹底していかなければなりません。

豪雨災害や新型コロナウイルスの感染拡大が続いた7月は、*“異常さ”*を併せ持っていました。これから台風シーズンを迎える、東日本や東北で猛威を振るった昨年の台風19号に伴う記録的な大雨は、各所に甚大な被害をもたらしました。これからは台風と、コロナ感染症の両面に神経を集中せざるを得ない時期を迎えようとしています。

なお、令和3年度の総会・交流会は、東日本大震災から10年目の節目の年であります。

なんとかコロナ感染症が終息することを願いつつ、会員の皆様と再開できます様お待ちしております。

## ふるさと納税について

志村良子（北区出身  
野田中学校平成2年卒）

昨年末、ふるさと納税で北海道北斗市へ寄付をし、返礼品で「ふつくりんこ」という品種のお米10kgをいただきました。

きっかけは、偶然閲覧したホームページで「岩手県野田村の皆様へ」のタイトルに書かれた文章を見たからです。

北海道の稲作の起源が野田村から移住した作右衛門さんによるもの、として北海道水田発祥の地碑が北斗市にあるという紹介がありました。

北海道の稲作の起源について少し調べると、江戸時代の後期の高田万次郎や明治初期の中山久蔵という名前が出てきますが、それよりはるか前（元禄5年・1692年）の

330年前に開田し、米を収穫したと記録に残っているそうです。作右衛門さんは、野田村のどこの人で、なぜその当時移住をし、稲作に打ち込んだのか、全くわかりませんが、誇りに思える郷土出身者だと思えました。

近年、個人的に北海道米をよく食べていたので感動しました。テレビCMで見ると「ゆめぴりか」や「ななつぼし」に引けをとらないおいしさですが、「ふつくりんこ」は関東圏内では販売店舗が無く、はじめて知りました。もちろん、野田村にもふるさと納税をしました。返礼品は福来豚のカルビとホルモン鍋セットで「ふつくりんこ」米と一緒に食べ満喫しました。



北斗市にある北海道水田発祥の地碑

# 宇部川河口と和佐羅比山



桜庭 昌  
新山出身・  
野田中昭和33年卒

など考えていま  
す。

令和2年、  
新型コロナコ

ナウイルスの感  
染拡大。コロナ  
禍の中で家に閉  
じこもらざるを

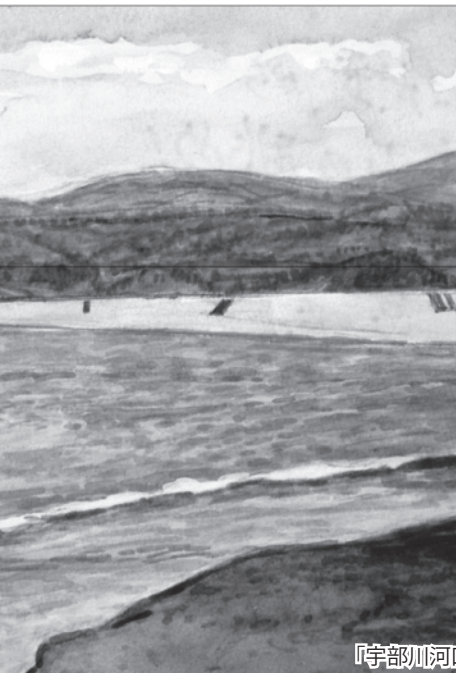
**横** 浜市に住んで早、半世紀。  
野田小、野田中学校で学  
び、故郷の自然豊かな環境に  
とっぷりとつかっていました。  
その後、ふる里である野田村を  
離れ、横浜での生活が圧倒的に  
長くなります。若いころは、仕  
事に子育てに追われる毎日で、  
気持ちに余裕もなく、故郷野田  
村のことは考える暇さえなかつ  
たように思います。私にとつて  
故郷野田村とは「ふるさととは遠  
きにありて思うもの」まさに室  
生犀星の心で、後ろを振り返る  
ことなく前進していたようにも  
思います。

**私** は現在、仕事も退き、子  
どもたちもそれなりに独  
立して、気持ちに余裕が出てき  
たように思います。社会とのつ  
ながりが薄れてきましたが、辛  
うじて、町内会（3600世帯）  
の理事として現在活動をしてい  
ます。お世話になっている地域  
にいくらかでも貢献ができるか

得なくなりました。私は毎日何  
かにとりつかれたように水彩風  
景画を描いていました。気がつ  
いたら題材のほとんどが、故郷  
野田村の風景でした。45枚描き  
終えたところで、6月に目の病  
気にかかり、硝子体出血と白内  
障で入院し、手術を受けました。  
数日で退院して、安静・療養を  
しましたが、今は完治し、一安  
心しています。

ると毎日のように新山の宇部  
川河口の砂浜（須賀）に行つ  
て、野田湾の海と宇部川河口で  
泳いだり、水遊びをして一日中  
過ごしていました。海では波に  
向かって突っ込んでいたり、  
潜ったり。川では、泳いだり  
潜って小石を拾ったりして夢中  
で遊んでいました。私が泳げる  
ようになった所は確か、宇部川  
河口でした。小学校2年生の時  
だったと思います。夏休みのあ  
る日、河口で泳ぐ真似をして遊  
んでいたら、突然泳げるようにな  
ったのです。そのときの感激  
は、この歳になっても忘れられ  
ません。

姿は富  
士山に  
似てい  
ると思  
いまし  
た。そ  
のこと  
は誰に  
も言い  
ません  
でした。  
最近に  
なって  
知った  
のです  
が、地  
元では  
「野田富  
士」と  
呼んで  
いるそ  
うです。



『宇部川河口と和佐羅比山』（作画・桜庭昌）

**気** 持ちに余裕ができてくる  
過ごした故郷野田村の山、海、  
川の風景が脳裏に鮮やかに浮か  
んできます。そんなとき啄木の  
歌が口をついで出てきます。「か  
にかくに 洪民村は恋しかり  
おもひでの山 おもひでの川」。  
故郷野田村における私の心の原  
風景は、小学生のころの宇部川  
河口と、そこから眺めた和佐羅  
比山の雄姿です。

**今** ではとても考えられない  
ことですが、昭和20年代  
頃はまだ学校や村にはプール等  
はなく、子どもだけで海や川に  
行って、勝手に泳いだり、水遊  
びしていたように思います。

**海** や川で遊び疲れたり、体  
陽の熱で暖められた砂浜（須賀）  
に上がり、腹ばいに横たわって  
体を温めました。横たわりなが  
ら顔を上げると、松林の防潮林  
の向こうに、あの和佐羅比山の  
雄姿がありました。あるときは  
大きく、あるときは小さく日々  
変化して見えるのです。その

**昭** 和  
20年代半  
ばころ  
の宇部川河口は、現在の所では  
なく、やや南側にありました。  
当時この場所は砂浜（須賀）が  
広がり、夏の時期は煮干し作り  
が行われ、ムシロに煮たイワシ  
を干していました。今では新山  
の浜や河口はあの頃の面影は全  
くなくなりました。  
**半** 世紀以上の時代経過があ  
りますが、野田漁港入り  
口付近の岸壁からは、今も変わ  
らない和佐羅比山の雄姿を眺め  
ることができません。帰省の折は  
是非行って見て下さい。

**昭** 和20年代半ば、小学生  
だった私は、夏休みにな

と毎日のように新山の宇部  
川河口の砂浜（須賀）に行つ  
て、野田湾の海と宇部川河口で  
泳いだり、水遊びをして一日中  
過ごしていました。海では波に  
向かって突っ込んでいたり、  
潜ったり。川では、泳いだり  
潜って小石を拾ったりして夢中  
で遊んでいました。私が泳げる  
ようになった所は確か、宇部川  
河口でした。小学校2年生の時  
だったと思います。夏休みのあ  
る日、河口で泳ぐ真似をして遊  
んでいたら、突然泳げるようにな  
ったのです。そのときの感激  
は、この歳になっても忘れられ  
ません。

姿は富  
士山に  
似てい  
ると思  
いまし  
た。そ  
のこと  
は誰に  
も言い  
ません  
でした。  
最近に  
なって  
知った  
のです  
が、地  
元では  
「野田富  
士」と  
呼んで  
いるそ  
うです。

**昭** 和  
20年代半  
ばころ  
の宇部川河口は、現在の所では  
なく、やや南側にありました。  
当時この場所は砂浜（須賀）が  
広がり、夏の時期は煮干し作り  
が行われ、ムシロに煮たイワシ  
を干していました。今では新山  
の浜や河口はあの頃の面影は全  
くなくなりました。  
**半** 世紀以上の時代経過があ  
りますが、野田漁港入り  
口付近の岸壁からは、今も変わ  
らない和佐羅比山の雄姿を眺め  
ることができません。帰省の折は  
是非行って見て下さい。

# 会員の声

## 私にとっての野田



(旧姓 佐藤)  
矢崎 ナヲ  
本町出身・  
野田中昭和35年卒

**私** にとっての野田とは？遠く近く近い野田。近くて遠い野田。

**中** 国の満州から引き揚げて、野田小学校1年入学

(入学式には間に合いませんでした。)から野田中学校卒業まで過ごし、その後は夏休み、冬休みに帰省するだけでした。

**小** 学校では、「ことば」が通じなくて、慣れるのに大



本町地区にある『のだむらの小さないえ』

変で、ずる休みしたり、泣きながら早退したりしていました。

ばや学校生活に慣れてくると友達もたくさんでき、城内や愛宕山でよく遊びました。また、遠くは新山の大唐の倉や十府ヶ浦海岸にも遊びに行きました。

**中** 学校は、丁度校舎新築が終了し、運動場の整備に生徒が駆り出されており、テニス部に入学しましたが、覚えているのはテニスコート造り。バケツに下の沢から水を汲み、コートに撒いて土を固める。水運びも難しかった。零れないようにバケツに葉っぱを浮かべて天秤棒で担ごうとするが、うまくいかない。家に帰ってから練習してみたが、うまく運ばない。結局、バケツを手で運びました。テニスのラケットは買ってもらいましたが、テニスをしたかどうか覚えていません。笑い。笑い。

**秋** には、堆肥作りの落ち葉集めで、授業がなく嬉し

かったです。学校まで遠かったからか、自転車通学しても良いと言われ、喜び勇んで自転車で登校しましたが、上り坂のきつかったこと。疲れ切って勉強どころではありませんでした。結局、自転車通学も1〜2週間で止めてしまいました。

**何** たのは、東日本大震災、実家流失でした。どうしようかと悩みましたが、「心の故郷野田村」と思い、「のだむらの小さないえ」を建てました。その後は、毎年、夏は野田で過ごしています。今まで離れていた時間を取り戻し、知らなかった野田探検と村営バスや友人たちに案内してもらい、豊に楽しく！

このテレビの無い生活は私にとって何よりのご褒美。野田村に感謝です。

**庚** 子年のネズミの大暴れにより、今夏は、東京在住者は身動きがとれず、帰省できません。残念です。母が野田に永住していたのは、野田村の良さでした。

貯まるは  
脂肪のみ

コロナ禍や  
貯まるは  
脂肪のみ

## 野田はまなす会役員名簿

(任期：令和2年度～令和3年度)

| 役職     | 氏名    | 住所       | 出身地区 |
|--------|-------|----------|------|
| 顧問・相談役 | 桜庭 昌吾 | 埼玉県入間市   | 新山   |
| 会長     | 久慈 士郎 | 千葉県我孫子市  | 前田小路 |
| 副会長    | 米田 忠男 | 埼玉県和光市   | 米田   |
|        | 山根 正信 | 千葉県鎌ヶ谷市  | 横町   |
| 幹事長    | 坂本 悟  | 埼玉県吉川市   | 新山   |
| 副幹事長   | 志村 良子 | 東京都品川区   | 北区   |
|        | 加藤 和子 | 東京都杉並区   | 根井   |
|        | 戎谷 牧子 | 東京都青梅市   | 明内   |
|        | 北田 誠治 | 東京都杉並区   | 愛宕町  |
|        | 下向 薫  | 東京都西東京市  | 横合   |
| 神奈川幹事  | 大澤 直人 | 神奈川県川崎市  | 前田小路 |
|        | 欠端 博雄 | 神奈川県相模原市 | 泉沢   |
| 千葉幹事   | 小野 正美 | 千葉県佐倉市   | 泉沢   |
|        | 大沢 勝司 | 千葉県佐倉市   | 旭町   |
| 埼玉幹事   | 大沢 清子 | 埼玉県日高市   | 新山   |
|        | 諫山とも子 | 埼玉県三郷市   | 愛宕町  |
| 監事     | 坂本 春雄 | 東京都足立区   | 門前小路 |
|        | 十文字敏幸 | 東京都江戸川区  | 南浜   |

## 新役員を紹介します

|  |                                   |  |
|--|-----------------------------------|--|
| 役職名  | 監査                                |  |
| 氏名   | じゅうもんじ 十文字 としゆき 敏幸                |  |
| 生年月日   | 昭和30年6月4日生まれ<br>(昭和46年3月 野田中学校卒業) |  |
| 出身地区   | 南浜地区                              |  |
| 今の住所   | 東京都江戸川区                           |  |
| <b>経緯と抱負をひとこと</b>  |                                   |  |
| <p>学校を卒業してから、十数年建築の修行をしていました。28歳の時、野田村に「工務店」を立ち上げ、長いこと営業を続けていましたが、さらに関東圏に仕事を拡大したいと考え、東京に「出張所」を設けて、主に公共の建物の内装工事を中心に仕事を続けています。</p> <p>令和2年度から野田はまなす会の監事として、皆様と一緒に活動することになりました。野田村をふるりに持つ皆さんが相互に懇親を深め、野田村を応援しながら、楽しい会となるよう努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> |                                   |  |

人生、来た道を振り返って



小野正美  
泉沢出身・  
野田中昭和35年卒

遊んでいるうちに、引き潮で岸に戻れなくなり、部落の人たちに助けられてもらったことは、

**私**は昭和20年1月、泉沢地区の三日市場に、7人兄弟の3男として生まれました。母親は、私が小学校低学年の時、若くして亡くなりましたので、兄たちは北海道でイカ釣り漁師や東京方面での出稼ぎの仕事をしていました。

今でも怖い思い出として残っています。昭和20〜30年代の小中学校時代は、今みたいに家の中のゲーム遊びのない頃で、大自然を相手に、素朴な遊びに夢中になっていました。

**私**の小学校時代の思い出は、朝早く学校に行き、友達とドッジボールをしたり、休み時間には相撲などして汗だくになり遊んだことです。また、放課後には前浜の松林でリスを追いかけたり、冬には、白戸沼で下駄スケートなどして暗くなるまで遊びました。

昭和35年、野田中学校を卒業し、4月に集団就職で千葉県佐倉市にきました。私が就職したのは注文紳士服を縫製する仕事のお店です。店には数名の先輩が働いていました。住み込みですの、朝は4時半には起きて、下働きをしていました。仕事に慣れるまで何年もかかりました。注文服をなんとか作れるようになるまでは10年ばかりかかりました。

**中**学校に入学したある時、前浜の海で友達何人かでイカダ乗りをして

その後、29歳の時、佐倉市に家を建てることになり、大工職人の兄や親戚の手助けで持ち家を建てるのですが、今でも感謝しています。

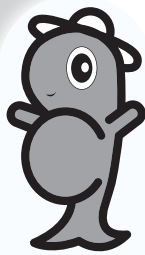
昭和52年、千葉県八街の人と結婚しました。妻の実家は農家ですの、妻はいつも実家の手伝いをしています。私も休みの時は良く手伝いました。妻の実家は、毎週日曜日の朝市に出荷していましたので、私もトラックに収穫したばかりの新鮮な野菜を積み込み、17年間、野菜売りの手伝いをしていました。

がて、本業の紳士服仕立業も、既製服が多くなり、注文服が廃れてきました。34年間勤めていた店も閉店することになり、やむなく退職しました。次に、近くのレディースファッションを作っている会社に就職しました。ここでは、機械で生地を裁断する仕事でした。この会社は、社員の福利厚生が良く、海外旅行も3回も行くことができました。今でも楽しい思い出として残っています。

**こ**の会社に7年間勤めてから、1年ほど休み、現在も勤めている警備会社に就職しました。外仕事ですから、暑い日、寒い日、雨の日など、大変でしたが、今でも月に10日前後働いています。

1000年に一度と言われるこの大震災は、昨日の出来事のように心に焼きついています。平成23年3月11日、東日本大震災が発生した時は、自宅にいて、突然すごい揺れでびっくりしました。すぐテレビをつけたら、東北地方の海岸の凄まじい光景が目飛び込んできました。すぐ、野田にいる親族に電話しましたが、なかなか通じませんでした。親族は皆無事でしたが、実家の建物は流木などで壊され、後日解体しました。

あとがき



イメージキャラクターのんちゃん

◆今までに世界に類を見ない新型コロナウイルスの地球規模での大感染には恐れ戦くばかりです。日本全国に大感染の第2波が押し寄せています。マスクを着用して、三密（密閉・密集・密接）を避ける生活で、己の身を防御するしかありません。

た。悲しいことでした。今年には、新型コロナウィルス感染拡大の影響で、私たちの「野田はまなす会」の総会も中止となり、非常に残念でした。来年の総会が開催され、皆さんに会えることを楽しみにしています。これからも、生まれ育った自然豊かなふる里、野田村を応援していきたいと思っています。

◆オリンピックも来年に延期されましたが、見通しは暗いです。残念ながら、ふるさと野田を走る聖火もなしです。

◆全住民に、一律10万円の給付がありました。会員のみなさん、元気になりましたか？

◆野田村のイメージキャラクター「のんちゃん」が「ゆるキャラグランプリ」に初出場しています。9月25日まで、私も毎日一票ずつ投票を続けました。全国50番以内に入るようお願いいたします。結果が楽しみです。

◆はまなす通信の本号では活動の報告はなしで、会員の声を中心に編集しました。急な寄稿のお願いに添えてくれた方に感謝します。次号にも多くの会員の皆さんの声を是非寄せて下さい。